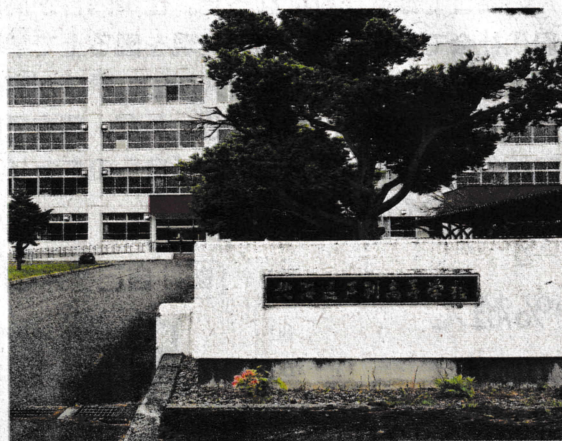


芦別は地域連携校

公立高配置計画案 滝川が協力校に

北海道教育委員会が3日公表した2026～28年度の公立高配置計画案で、芦別を26年度から、他校から教員研修などで協力を受ける「地域連携校」とする方針を示した。今春の入学人数が定員に対して1学級少なかった栗山と深川西の26年度の募集学級数は、9月の計画公表時まで決定を持ち越した。



北海道教育委員会が2026年度から地域連携校となる計画案を公表した芦別高

栗山、深川西 学級数今後決定

地域連携校は1年生1学級の小規模校で、地理的に他校との統合が難しい場合に指定され、空知管内では夕張が19年度、月形が21年度に導入。本来は再編統合の対象となる「1年生が2年連続20

人未満」に該当しても、学校の魅力向上に努めることで再編が一定期間留保される。ただし2年連続で1年生が10人未満の場合は再編対象となる。芦別は24、25年度とも2学級(80人)で募集し

たが、入学者はそれぞれ26人、23人で1学級減に。2学級維持を目指していた市教育委員会は高校存続へと目標を切り替え、地域連携校指定に向けて道教委と協議を進めていた。

指定後は滝川が協力校となり、教員研修などで連携する見通し。北海道高校遠隔授業配信センタ

ー(札幌)から、小規模校では開設が困難な教科の配信を受けることもできる。市教委は「高校存続の危機が当面回避され、安堵した。今後も入学増に向けて地域一丸で対策に取り組む」、小形和律校長は「今後、協力校との連携内容を詰めていく。授業の改善や情報発信に努めたい」と話した。

一方、栗山、深川西の学級数について、道教委は「中卒者数や生徒の進路動向を踏まえて決定する」としている。栗山の坂上大介校長は「今後の中学生の進学状況などを見極めながら、どのように募集するのか検討していく」と話した。

このほか、同時に公表された26年度の公立特別支援学校の配置計画案では、岩見沢高等養護の職業学科(工業科、商業科、生活科学科)で1学級(8人)増、美唄養護で普通科1学級(8人)と普通科1学級(重復)1学級(3人)が増となった。

(横田望、穴戸透、丸山格史)